サクサグループ

環境報告書

2015

目　次

目 次	2
編集方針	2
会社概要	2
事業概要	2
環境報告書2015について	3
環境管理のあゆみ	3
環境管理に影響を及ぼす事業環境等の変化	3
ごあいさつ	4
サクサグループ環境宣言・環境方針	5
サクサグループ環境中期計画	5
環境保全活動推進組織体制	6
環境マネジメントシステム・ISO14001認証取得状況	6
製品の環境配慮	7～8
環境配慮設計に関わる制度	7
サクサエコ商品	8
事業活動に関する環境配慮	9～11
地球温暖化防止・省エネルギー	9
廃棄物削減・循環資源化	9
化学物質管理、ポリ塩化ビフェニルの管理、規制遵守状況	10
緊急事態対応、環境教育・啓蒙活動	11
2014年度（平成26年度）環境目標達成状況	11
社会貢献活動を通じた環境への寄与	12

会 社 概 要

商　号	サクサホールディングス株式会社
本　社 所在地	〒108-8050　東京都港区白金一丁目17番3号 NBFプラチナタワー
設　立	2004年2月2日
資本金	108億円（2015年3月31日現在）
代表者	代表取締役社長　越川　雅生
年　間 売上高	436億円（2015年3月期実績・連結）
グループ 従業員数	1，274名（2015年3月31日現在）
経営理念	独創的な技術を核に、新しい価値を創造し、 活力とゆとりある社会の発展に貢献する

＜サクサグループ（2015年3月31日時点）＞　連結決算範囲

- サクサホールディングス株式会社（持株会社）
  - サクサ株式会社（事業中核会社）
    - サクサテクノ株式会社（生産会社）※2
      - 株式会社コアタック（生産会社）
      - サクサテクニカルサービス株式会社（修理会社）※2
    - サクサシステムエンジニアリング株式会社（システム開発会社）
    - 株式会社システム・ケイ（システム開発会社）　※1
    - 株式会社マイスター（システム開発会社）　※1
    - サクサプロアシスト株式会社（グループ内サービス会社）
  - サクサプレシジョン株式会社（生産販売会社）
    - 東莞可比世電子有限公司（生産会社）　※1
  - サクサビジネスシステム株式会社（販売・保守サービス会社）

※1　サクサグループ環境保全活動推進組織外であるため、本報告書での活動実績には含まれていません。
※2　サクサテクノ株式会社とサクサテクニカルサービス株式会社は、サクサテクノ株式会社を存続会社として2015年4月1日付で合併しました。

編 集 方 針

参照ガイドライン	環境省「環境報告ガイドライン」（2012年版）を可能な範囲において参考にし、作成しています。
公表媒体	本報告書は、紙資源使用抑制の観点から、サクサグループホームページでのWebによる公開のみとします。 http://www.saxa.co.jp/　「環境への取り組み」
発行日	2015年9月30日（毎年、9月下旬）

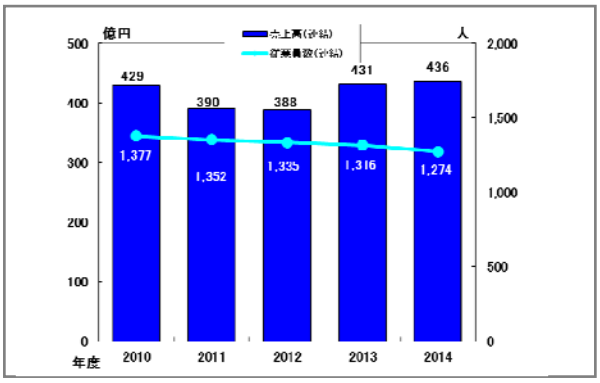
事 業 概 要

サクサグループは、「つなげる技術の、その先へ。」をコーポレートメッセージとし、今まで培ってきたコミュニケーション機器の提供からさらに進化したお客様の安心、安全、快適、便利を実現し、お客様の明日を担う商品、ソリューションの提供を目指す企業グループです。

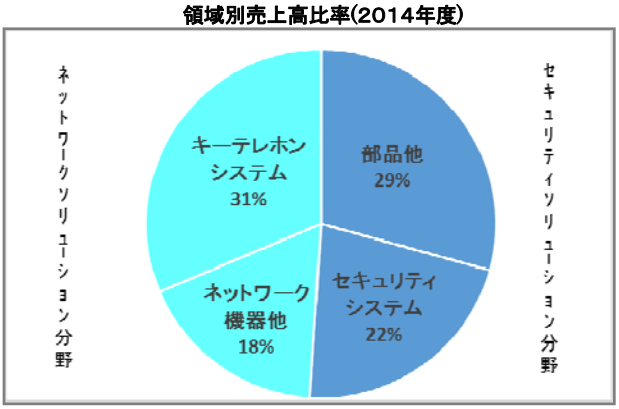
事業領域　　＜ソリューション・商品＞

中小規模オフィス向けキーテレホンシステム、IP電話機、IPインターホン、IPドアホン、光関連機器、ネットワーク機器、VoIP通話録音システム、警備保障会社向け警備システム、火災通報装置、オートホンシステム、ホームセキュリティシステム、インターネットカメラシステム、キャンパス・企業向けカードシステム、一斉配信システム、TV会議／Web会議システム、各種カードR/W、ネットワークビデオレコーダ、警報機、センサ関連商品、画像認識システムおよびこれら商品によるソリューションの提供

サクサグループ売上高・従業員数の推移



領域別売上高比率（2014年度）



会社概要、事業概要等の詳細については、サクサグループホームページ（http://www.saxa.co.jp/）の「企業情報」および「株主・投資家の皆様へ」に掲載した公表資料等で、また、ソリューション・商品の詳細は「製品・システム情報」「ソリューション」でご覧になることができます。

環境報告書2015について

対　象　期　間	本環境報告書は、2014年度（2014年4月1日～2015年3月31日）における状況、成果等を公開するものですが、内容により、当該年度前後の事項に関するものを含む場合があります。必要に応じ時期を記載します。
活動結果、実績等に関する対象範囲（商号、所在地およびこれに関わる情報は、2015年4月1日現在のものです。）	本報告書に記載した内容は、以下のグループ企業によるものです。 必要により、これ以外のグループ企業、拠点等に関する情報を記載する場合は、会社名、拠点名等を記載します。 なお、エネルギー使用量、廃棄物のデータは、自社で直接把握、管理できる範囲としてサクサグループ所有事業場について集計、記載しています。2012（H24）年度までは、サクサプレシジョン株式会社埼玉本社を含む6事業場、2013（H25）年度以降は、以下の表の②～⑥の5事業場です。

	①	②	③	④	⑤	⑥
サクサホールディングス株式会社	◎	○				
サクサ株式会社	◎	○	○			
サクサシステムエンジニアリング株式会社		○				◎
サクサテクノ株式会社※1			○※1	◎		
サクサプレシジョン株式会社　※2					◎	
株式会社コアタック			◎			
サクサビジネスシステム株式会社　※3	○	○				
サクサプロアシスト株式会社		◎	○			

◎：本社（または本社機能）所在地、○：その他の事業所等　　①はテナントとして入居

① 東京都港区白金1-17-3　NBF プラチナタワー
② 神奈川県相模原市中央区宮下3－14－15
③ 山形県米沢市東1－10－71
④ 山形県米沢市八幡原4－3146-13
⑤ 山形県米沢市中田町1713
⑥ 青森県八戸市北インター工業団地1－3－54

※1　サクサテクノ株式会社とサクサテクニカルサービス株式会社は2015年4月1日に合併。米沢事業場は旧サクサテクニカルサービス株式会社の事業場。
※2　本店　：　東京都新宿区新宿1－4－8
※3　本社　：　東京都品川区東五反田1－7－6　藤和東五反田ビル

お 問 合 せ 先	サクサホールディングス株式会社　CSR推進室　〒108-8050　東京都港区白金1-17-3　NBF プラチナタワー TEL：03-5791-5515　FAX：03-5791-5562　E-mail：eco@saxa.co.jp

環境管理の歩み

年	主　な　出　来　事
2004(H16)	サクサグループ発足、グループ一体となった環境マネジメントシステムを構築、運用開始（4月）
2005(H17)	・サクサ株式会社として ISO14001 認証取得済みの本社、相模原、米沢地区に加え、中延事業場を、また、関連事業所としてサクサシステムエンジニアリング株式会社（青森県八戸市）、サクサテクニカルサービス株式会社（栃木県矢板市）を拡大登録、グループ一体となった認証を取得（3 月）（注：最新の認証登録範囲は6ページに記載） ・サクサエコ製品基準制定、認定開始（4 月）
2006(H18)	・閉鎖事業場（目黒・中延・栃木）からのポリ塩化ビフェニル使用機器移動、届出完了（～3 月） ・ISO14001　2004 年版認証へ移行（3 月） ・有害元素蛍光X線検査装置稼働開始（4月） ・サクサ相模原オフィス　5トンボイラー廃止（5月）
2009(H21)	・サクサグループグリーン調達ガイドラインをホームページに公開（6月）
2011(H23) ～2012（H24）	・CSRの一環としての環境保全活動の位置付けを明確にするため、サクサホールディングス株式会社に環境保全活動の主管部門を設置（2011 年 4 月）、ISO14001　認証登録企業もサクサホールディング株式会社に変更（2012 年3月）
2012(H24)	・サクサ米沢事業場のボイラー廃止（11 月）、大気汚染防止法ばい煙発生施設の該当施設は全廃
2013(H25)	・サクサ米沢事業場保管の廃PCB（コンデンサ7台）について廃棄処理完了（8月）
2015（H27）	・サクサプレシジョン株式会社保管の廃PCB（コンデンサ1台）について廃棄処理完了（5月） ・サクサ米沢事業場保管の廃PCB（コンデンサ2台）について廃棄処理完了（8月）

環境管理に影響を及ぼす事業環境等の変化

2014年度、サクサグループの環境管理に影響を及ぼす事業環境上の変化は次のとおりです。
（既に環境報告書2014に記載した事項および2015年度上期の情報を含みます。）

環境管理上に影響を及ぼす事業環境等の変化	対　応
サクサアドバンストサポート株式会社とサクサビジネスシステム株式会社は、2013年6月1日付で合併し、商号はサクサビジネスシステム株式会社となりました。（既報）	合併前の旧二社とも、環境規制等に関わる特定施設もなく、環境管理に対する影響はないと判断しています。（既報）
サクサテクノ株式会社とサクサテクニカルサービス株式会社は、2015年4月1日付で合併し、商号はサクサテクノ株式会社となりました。	合併後も場所、設備等に変更はなく、環境管理に関する影響はないと判断しています。

ごあいさつ

サクサホールディングス株式会社
代表取締役社長

越川　雅生

今年も春先から度重なる台風の到来や集中豪雨の発生、夏には全国で連続猛暑日の記録が更新されるなど、異常気象が各地で発生しました。異常気象の原因はＣＯ２など温室効果ガスの増加などの影響であることは明らかで、このまま温室効果ガスの増加にともなう温暖化の進行が進めば、将来の温暖化悪影響に対し人類が対処しきれなくなるリスクとなることが想定されます。そのリスクに対し、企業はどの様に考え、どう行動し、製品、サービスを提供していくことにより、その結果としてリスクの軽減・回避させることが重要な役割となっていくことでしょう。

サクサグループは、２０１５年度から２０１７年度まで中期経営計画の基本方針のひとつとして「持続成長可能な事業への転換」をかかげ安心、安全、快適を提供できる「事業の拡大」に取り組んでおります。その取り組みのひとつを紹介しますと、サクサグループの持つセンシング技術を基軸に、消費電力だけでなく温度・湿度・照度等をリアルタイムに把握できる「環境の見える化ソリューション」があります。それにより効果的かつ効率的な節電によるＣＯ２の削減と同時に、お客様に快適なオフィス環境の提供が可能となります。

これからも「サクサグループの環境方針」のもと、製品、システムおよびサービスの提供により、リスクの軽減・回避を目指し社会的責任を果たせる様努めてまいりますので、皆様からのご支援、ご指導を心からお願い申し上げます。

サクサホールディングス株式会社
専務取締役
CSR推進担当

サクサグループ
環境総括責任者

鈴木　　譲

サクサグループでは、経営課題の一つとして２０１４年度も「ＣＳＲ活動の着実な実践」を掲げ、特に環境活動では「経営に密着した、成果のともなう活動」として計画し、実施してまいりました。主な活動は以下のとおりです。

１．環境配慮した製品づくり

製品含有化学物質の進展と情報伝達スキーム統合化対応のために、管理を効率化する新たなシステムを２０１５年度から運用開始予定です。また環境配慮製品の拡大・充実のために製品環境アセスメント項目の「省資源化」評価の高い製品をサクサエコ商品として認定し、同時に部品点数削減によりコストダウンも実現しました。

２．環境に配慮した事業活動

地球温暖化防止のためエネルギー使用原単位を基準年（２０１２年度）から２０２０年に向け、年平均１%改善をしていくことを目標に活動しております。原単位はエネルギー消費に関する効率を表す単位で、目標達成のために、継続的に電気消費量を減らす効果が大きい照明設備のＬＥＤ化を実施しておりますが、今後は老朽化した設備の更新時に随時省エネタイプを導入することにより、電力使用効率を向上させ、電気料金の値上げという課題にも対応していく予定です。

今後も環境活動を行うことが、「経営に寄与できる活動」となるよう、工夫を加えながら継続的改善活動を行ってまいります。

サクサグループ環境宣言 ・ 環境方針

サクサグループ環境宣言

サクサグループは、
すべての事業分野において環境に配慮した事業活動を推進し、
自然と調和した持続可能な社会の発展に貢献します。

サクサホールディングス社長

環 境 方 針

環境宣言に基づき、次の行動指針を定め、
サクサグループのひとりひとりが環境保全活動を実行します。

行 動 指 針

1. 地球環境問題が経営における重要課題であるとの認識を持ち、企業としての社会的責任と社会的貢献の役割を果たすため、環境経営を推進します。
2. 情報通信ネットワーク機器ならびにシステム等に関わる開発、設計、製造、販売、保守その他付帯事業を展開していることを踏まえ、グループ一体となって環境マネジメントシステムを構築し、地球環境保全に取り組みます。
3. 内部環境監査およびマネジメントレビューにより環境マネジメントシステムを継続的に改善し、環境保全活動を推進します。
4. 関連する環境法規制、協定および同意した要求事項、必要に応じて定める自主基準を遵守します。
5. 事業活動、製品、サービスによる、緊急時を含む環境への影響を認識し、適切に管理することにより環境汚染の予防を図ります。
6. 環境方針達成のため、環境に配慮した製品づくり、環境に配慮した事業活動、環境管理を3つの柱とした環境目的・目標を設定し、すべての事業分野をとおして、地球温暖化防止、省エネルギー、省資源、廃棄物削減、循環資源化、有害物質使用削減等に取り組みます。
7. 地域や取引先をはじめとする利害関係者とのコミュニケーションを図り、連携して環境の改善に努めます。
8. 環境方針を全従業員に周知し、環境への意識向上を図ります。

環境総括責任者
2011年4月28日改訂

サクサグループ環境中期計画

環境方針に沿って中期計画（環境目的）を策定し、継続的改善に取り組んでいます。
中期計画は、進捗状況および事業環境の変化等に照らして毎年見直しを行い、改訂しています。
この中期計画に基づき、年度ごとに具体的な環境目標を設定し、環境方針の具現化を推進しています。

（2015年度版）　☆は、2014年度版から内容変更した箇所

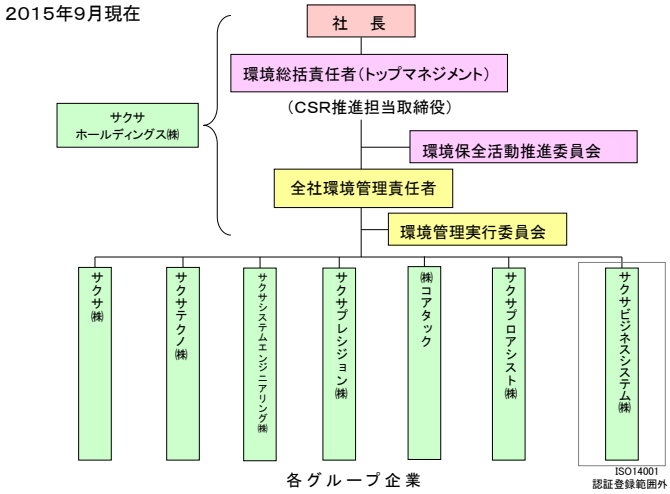
1. 環境に配慮した製品づくり	（１）製品含有化学物質管理 製品含有化学物質規制への対応および運用改善
	（２）環境配慮製品の拡大・充実 環境配慮設計関連規程類の運用を通した製品環境配慮の推進
2. 環境に配慮した事業活動☆	（１）地球温暖化防止 サクサグループ所有事業場（※）において、エネルギー使用量原単位を２０２０年に向け、年平均１％以上改善
	（２）廃棄物等の削減・循環資源化 ① 産業廃棄物排出量原単位の改善（資産等の廃棄に関わるものを除く） ② 事業系一般廃棄物排出量原単位の改善（剪定による木くずを除く）
3. 環境管理	（１）環境マネジメントシステムの向上 経営に寄与する環境マネジメントシステムへの改善

※ サクサ相模原オフィス、サクサ米沢事業場、サクサテクノ（八幡原）、サクサプレシジョン（米沢工場）、サクサシステムエンジニアリング（八戸本社）。

☆ 環境に配慮した事業活動として実施していた用紙使用量の削減は、所期の効果が得られたことから今後は日常管理とし、改善項目から削除

環境保全活動推進組織体制

CSR活動の一環としてサクサグループ一体となった環境保全活動を推進するため、持株会社であるサクサホールディングス株式会社に環境保全活動推進委員会を設置し、活動を行っています。



環境保全活動推進委員会は、各グループ企業の代表を含むメンバー構成で、サクサグループにおける中期的な環境計画、年度目標その他環境保全活動における重要事項を審議するとともに、活動の総括を行う機関です。

各グループ企業は、それぞれが独立した実行単位としてグループ全体の計画、目標に沿って、また、独自の視点も加えた目標設定を行い、活動を実施します。

環境マネジメントシステム ・ ISO14001認証取得状況

サクサグループでは、サクサホールディングス株式会社を登録事業者として、グループ企業を含めたISO14001認証を取得しています。

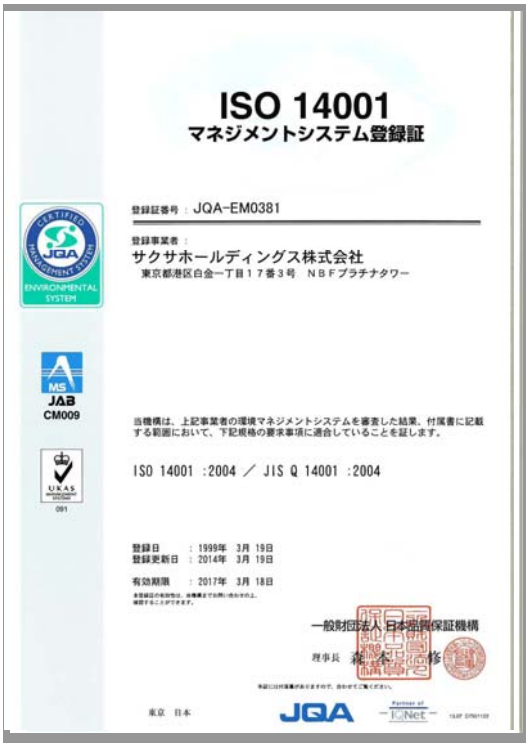
＜環境マネジメントシステムの継続的改善＞

環境マネジメントシステム運用状況を確認し、適合性、妥当性、有効性を判断するため、年1回下期に定期内部環境監査を実施し、発見された不適合事項、改善事項について、是正、改善を行っています。

また、毎年、環境マネジメントシステム認証機関による審査を受け、客観的な視点からの指摘に対する改善を行うことによって、レベルアップを図っています。

年度末には、実行部門ごとに、環境目的・目標の達成状況、法規制等の順守状況、内部環境監査の結果等をもとに環境マネジメントレビューを実施し、結果を環境総括責任者へ報告します。

報告された内容を踏まえ、グループ全体の環境保全活動を環境保全活動推進委員会で総括し、環境マネジメントシステムおよび環境に関する計画等に反映し、継続的改善につなげています。



ISO 14001
マネジメントシステム登録証

登録証番号：JQA-EM0381

登録事業者：
サクサホールディングス株式会社
東京都港区白金一丁目１７番３号　ＮＢＦプラチナタワー

当機構は、上記事業者の環境マネジメントシステムを審査した結果、付属書に記載する範囲において、下記規格の要求事項に適合していることを証します。

ISO 14001 :2004 ／ JIS Q 14001 :2004

登録日　：1999年 3月 19日
登録更新日　：2014年 3月 19日
有効期限　：2017年 3月 18日

一般財団法人 日本品質保証機構
理事長 [illegible]

東京 日本

＜ISO14001認証取得状況＞

＜認 証 機 関＞ 一般社団法人 日本品質保証機構
＜登録証番号＞ JQA－EM0381
＜登録事業者＞ サクサホールディングス株式会社

＜登 録 範 囲＞

登録活動範囲：ボタン電話装置、カード関連機器、ネットワーク機器、セキュリティ機器、その他部品の設計・開発、製造および販売

関連事業所：（　）内は、複数の事業場・拠点がある場合における対象サイト
サクサホールディングス株式会社
サクサ株式会社（本社、相模原、米沢）
サクサシステムエンジニアリング株式会社（八戸本社、相模原）
サクサテクノ株式会社
サクサプレシジョン株式会社（米沢工場）
株式会社コアタック
サクサテクニカルサービス株式会社
サクサプロアシスト株式会社（相模原、米沢）

登録更新日 2014年3月19日 有効期限 2017年3月18日

サクサプレシジョン株式会社の子会社である東莞可比世電子有限公司（中国・生産会社）は、審査登録機関AFAQ－EAQA LTD から、ISO14001:2004 認証を受けています。 登録番号：GE 07283

製品の環境配慮

製品の環境配慮は、お客様や社会からの重要なニーズと考えています。
製品の設計に際して環境配慮を推進するための制度を設け、環境配慮設計に努めています。

環境配慮設計に関わる制度

環境配慮製品

サクサエコ商品認定制度 → 設　計 ← 製品含有化学物質管理

製品環境アセスメント制度 → 設　計

環境配慮製品の自社基準としてサクサエコ商品基準を設定し、基準を満たしたサクサブランド商品を「サクサエコ商品」として認定し、カタログ、取扱説明書等へのシンボルマーク表示を行っています。

評価項目
- 製品環境アセスメント合否状況
- 部品および材料への含有禁止物質不含有
- 使用抑制する特定物質に係る使用基準の満足度
- 循環資源化向上に係る基準の満足度
- 省エネルギー設計基準の満足度
- 包装梱包材料の環境配慮基準の満足度
- 製品の環境配慮事項等に係る情報の公開状況

製品の製造から輸送、使用、廃棄（循環資源化を含む）に至るまでの一連の環境負荷について、省資源化、省電力化、リサイクル容易性、化学物質含有などに関する評価項目を設定し、設計初期および完了期の二段階において環境配慮の度合いを従来機種または類似品と比較し評価することにより、製品の環境負荷低減の推進に役立てています。

有害化学物質の不含有および化学物質の含有状況情報管理のための体制を整備し、サクサグループで定めた製品含有禁止物質の不含有およびお取引先様のグリーン調達ガイドラインへの対応を実施しています。

サクサグループグリーン調達ガイドライン

サクサグループグリーン調達ガイドラインを定め、サプライヤー様には製品含有化学物質管理で定めた含有禁止物質の不含有をお願いするとともに、化学物質含有情報について提供協力いただいております。
化学物質に関する事項はもとより、環境に配慮した企業から、環境に配慮した物品を調達するための基準を定めています。

サクサグループグリーン調達ガイドラインは、サクサグループホームページ（http://www.saxa.co.jp/）の「環境への取り組み」で公表しております。

最近発表したエコ商品

サクサ株式会社

UTM（統合脅威管理アプライアンス）「SS3000」

情報システム部門のない中小規模オフィスに展開するオフィス運営代理人システム「Office AGENT」シリーズの一つとして、UTM（統合脅威管理アプライアンス）「SS3000」を2014年11月から販売開始しました。
近年、インターネット回線速度の高速化など企業ネットワークを取り巻く通信環境の進展により常時接続や高速回線の環境が当たり前となっております。このような中、ウイルス感染だけではなく、スパイウェア、不正侵入およびフィッシングなどの新たな脅威も増え、ネットワークセキュリティ（以下「セキュリティ」という。）対策がますます重要になってきております。
「SS3000」はウイルス感染だけではなく、スパイウェア、不正侵入およびフィッシング、さらに、企業のネットワークを脅かすサイバー攻撃等のネットワーク上の脅威に対してそのリスクを低減させ、中小規模オフィスのネットワークにかかる運用コストや管理の大幅な低減を実現しております。

SS3000

「SS3000」は、低電力消費 CPU 採用、イーサネット未使用時に消費電力を低減、また、廃棄時のリサイクル容易化など、環境を配慮した設計を行いました。

製品の環境配慮

サクサエコ商品

2015年9月現在の認定商品から主なものを紹介します。

ネットワーク

豊富なビジネスホン機能に加え、
ユニファイドコミュニケーションを実現する新機能を搭載
中小規模オフィス向けキーテレホンシステム
PLATIA (Std/Pro/Ult)

NEW

人感センサ標準搭載
Bluetooth カールコードレス電話機
CL820 （PLATIA に接続可能）

NEW

Bluetooth コードレスホン
WS800 （PLATIA に接続可能）

より使いやすく進化した IP フォン
SIP 準拠 IP 電話機
IP NetPhone SX Ⅱ

NEW

最強のセキュリティであなたのオフィスを守ります
ビジネスに安心をもたらすネットワークセキュリティを
統合脅威管理アプライアンス
SS3000Std 〔UTM〕

高速で高セキュリティなVPN環境を、
簡単＆スピーディに実現
クラウド管理型VPNルータ
ZC1000

セキュリティ

非接触ICカード対応
アナログ電話回線だけでなくインターネット回線接続にも対応
ホームセキュリティ送信機
SHA-5100/SHA-5100C （写真は SHA-5100C）

異常事態をしっかり感知しスピーディに通報
ホームセキュリティ向け無線センサ
SR シリーズ
（写真は左から、SR-100 パッシブセンサ、SR-300 マグネットセンサ、SR-400 火災センサ）

インターネット接続によるメール通報、オリジナルメッセージによる音声通報や
非接触 IC カード対応など幅広いサービスを提供
中小規模事業所に最適なオフィスセキュリティ送信機
TS-MT0802 / TS-MT0802C/0802S 送信機
（写真は TS-MT0802C 送信機）

IP網経由で警報や画像を転送
中大規模事業所向け機械警備用送信機
TS-NT1003 送信機

各製品の仕様等については、サクサグループホームページ（http://www.saxa.co.jp/）の「製品・システム情報」でご覧になれます。

事業活動に関する環境配慮

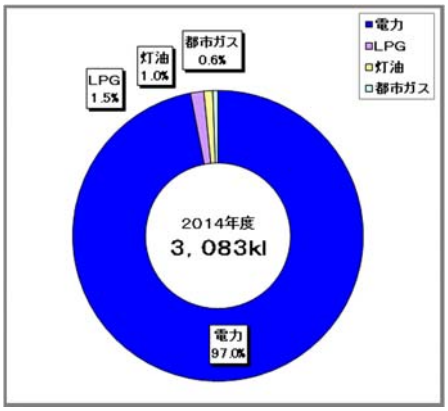
地球温暖化防止・省エネルギー

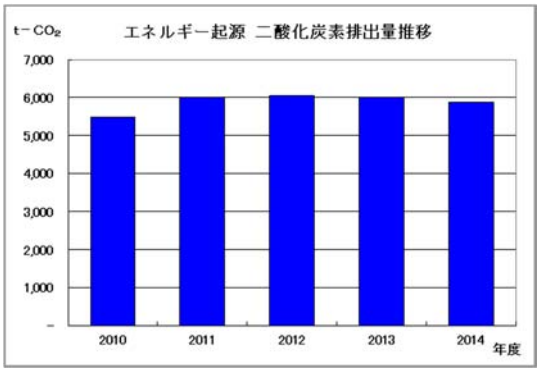
地球温暖化防止および電力需給状況を踏まえ、省エネルギー活動を推進しており、2014年度も前年度に引き続き、エネルギーの効率的な使用に向けた省エネ活動を実施しました。

2014年度のエネルギー使用量（原油換算値）は、各グループ会社にて、2013年度から継続的に照明の LED 化、電力使用状況監視等の施策を実施し、前年度比2．3%削減することができました。

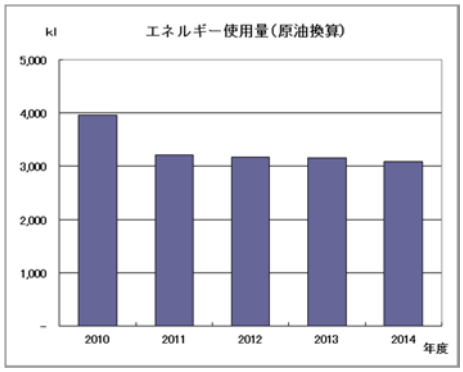
今後も、設備 導入時の省エネ配慮、例えば、LED照明導入、遮熱材による対策などを進めてまいります。

2014年度「エネルギー使用内訳」





電力使用量の二酸化炭素排出量への換算係数は、電気事業連合会公表の使用端CO_2排出原単位を使用。



サクサグループにおいては、エネルギー使用量原油換算値集計の結果、エネルギーの使用の合理化に関する法律に定められた「特定事業者（※）」として指定を受ける企業はありません。

注）掲載したグラフの集計範囲は、サクサグループが所有している事業場で、 2012年度までは6事業場、2013年度からは5事業場です。
対象事業場については、3ページ「環境報告書2015について」を参照下さい。また、集計対象エネルギーには、構外を走行する車両のガソリン、軽油を含みません。

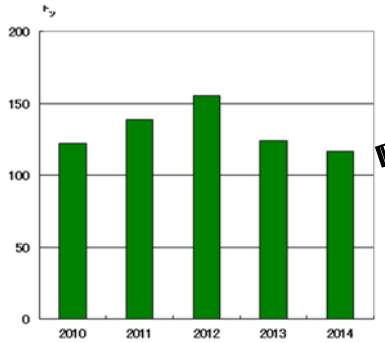
廃 棄 物 削 減 ・ 循 環 資 源 化

事業活動により発生する廃棄物について、発生の抑制と循環資源化を図っています。

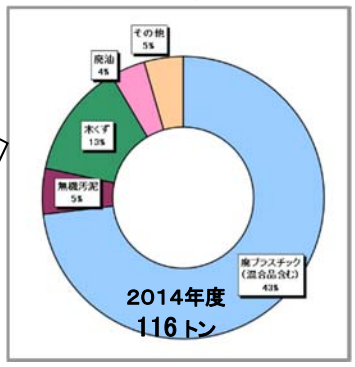
産業廃棄物については、生産系事業場において目標値を定め削減活動を実施した結果、前年度から6．0%の削減となりました。これは、生産状況の変化により2012年度に新たに発生した工程廃水（汚泥）について、2013年度から生産管理および設備管理による改善活動を行い、今年度も継続して取り組んできました結果によるものです。

また、事業系一般廃棄物については、前年度程度の排出量となりました。

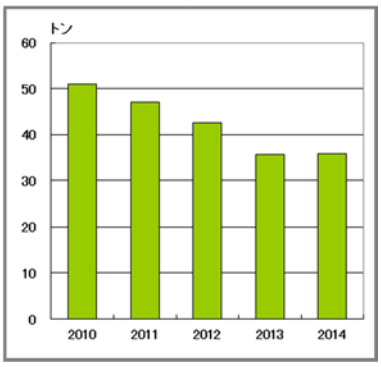
生産系事業場における産業廃棄物排出量推移



2014年度 生産系事業場 産業廃棄物内訳



事業系一般廃棄物排出量の推移



・生産系事業場：サクサ米沢事業場、株式会社コアタック、サクサテクノ株式会社（八幡原）
サクサプレシジョン株式会社（米沢工場）
・産業廃棄物排出量のグラフでは、非通常的に発生する廃棄物は除いています。

・剪定による切り枝は除く。
・事業系一般廃棄物の集計範囲は、サクサグループが所有している5事業場。（2012年度までは6事業場）事業場については、3ページ「環境報告書2015について」を参照下さい。

事業活動に関する環境配慮

化 学 物 質 管 理

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（化管法）」には、事業者に対して、化学物質の自主的な管理と一定要件に該当する場合、排出量、移動量を届け出ることが定められています（PRTR制度）。

サクサグループでは、この趣旨を踏まえ適切な管理を行うとともに、可能な限りの使用抑制・削減を図っています。

2014年度の状況において、サクサグループ内では、株式会社コアタックがPRTR制度の届出要件に該当することから、2015年6月末までに届出を行いました。

PRTR届出の状況

届け出を行った事業所の名称（過去における届け出を含む。）	第一種指定化学物質の名称	年 度 別 移 動 量（単位：kg）（廃棄物として処理するために当該事業所外へ移動した量）				
		2010	2011	2012	2013	2014
サクサテクノ株式会社 （山形県）	鉛及びその化合物	－	－	－	－	－
株式会社コアタック （山形県）	アンチモン及びその化合物	178．3	172．3	150．0	140．1	169．3

－ ： PRTR対象物質の取扱量集計の結果、化管法に定められた届出基準に該当しなかったため、届出は行っておりません。
サクサプレシジョン株式会社（米沢工場）では、アンチモン及びその化合物について取扱量、廃棄量を集計しておりますが、過去5年間、取扱量が届出基準に達していません。

ポリ塩化ビフェニル（PCB）の管理

ポリ塩化ビフェニルは、難分解性の性状を有し、人の健康および生活環境に有害な物質であり、汚染の拡大を防止するため、「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」により、ポリ塩化ビフェニル（以下「PCB」）廃棄物について、保管および処分の状況の届け出、期間内の処分、譲渡し・譲受けの制限などが定められています。

サクサグループにおいてPCB廃棄物を保管している事業場では、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の定めに従い、PCB廃棄物の散逸、漏洩等による環境汚染が発生しないよう管理しています。

また、現在も使用中の照明用安定器（PCB使用機器）については、使用済となったときに確実に回収するよう管理しています。

2015年3月31日時点において、サクサグループで保管しているPCB廃棄物は下表のとおりです。

なお、処理の早期登録対象機器については、日本環境安全事業株式会社に処理登録済みです。

PCB廃棄物保管状況（2015年3月31日時点）

廃棄物の種類	保 管 量（ ）内は前回環境報告書記載からの増減		
	相模原オフィス	米沢事業場	サクサプレシジョン（米沢工場）
高圧トランス	6台（1台増）	－	－
高圧コンデンサ	25台	3台	1台
蛍光灯安定器	718個	19個	－
PCB汚染物等	－	4点	－

※2015年2月に、変電所で使用していた高圧トランス1台を廃棄物として保管しました。

2015（H27）年度の処理状況

保管事業場	廃棄物の種類	数 量	最終処分終了年月日
サクサプレシジョン（米沢工場）	高圧コンデンサ	1台（30 kg）	2015 年 5 月 25 日
米沢事業場	高圧コンデンサ	2台（269 kg）	2015 年 8 月 25 日

規 制 遵 守 状 況

法律や条例により規制が定められている事項について、これを遵守し、また、リスクに応じ、規制に該当しない場合でも環境への負荷を最小限に抑えるために、規制に準じた管理を行っています。

2014年度、サクサグループの事業場において、法令・条例の基準値からの逸脱はありませんでした。

事 業 場	項 目			基 準 値		2014 年度測定値 ※1
				法令・条例の基準値	自主管理値	
相模原オフィス（神奈川県相模原市）	騒音	昼間及び朝夕	（dB）	75	70	60．5 ※2
	振動	昼間及び朝夕	（dB）	70	65	＜ 40 ※2、※3
米沢事業場（山形県米沢市）	騒音	昼間	（dB）	70	60	58．0
		夜間	（dB）	55	55	54．0
	振動	昼間	（dB）	65	50	＜ 45 ※3
		夜間	（dB）	60	－	－ ※4

※1 実績値は、年度および測定ポイントの最大値を掲載。
※2 夜間の操業はないため、夜間の測定はしていません。測定は、稼動中の「昼間」の時間帯に実施しています。
なお、最大値が出た測定地点の平均値は、56.1dBでした。
※3 当該測定機器の測定限界値以下。
※4 昼間、通常操業中の測定にて測定限界値以下であるため、夜間は測定していません。

事業活動に関する環境配慮

緊急事態への対応

貯油施設等からの漏洩、化学物質の流出などの環境汚染に関する緊急事態を想定し、対応手順を整備するとともに、定期的に訓練を実施して、万が一の場合の影響を最小限に抑え、迅速に復旧できるよう備えています。

また、このようなリスクを回避するため、日常的および定期的に監視を行っています。

2014年度において、環境への影響が発生する緊急事態の発生はありませんでした。

環境教育・啓蒙活動

環境保全活動に関連し、自覚教育や啓蒙活動を継続的に実施し、環境意識の定着・向上を図っています。

新入社員、新任管理職研修のプログラムには環境に関する単元を組み込むとともに、業務用車両運転資格登録者への安全運転講習会におけるエコドライブの意識づけ、製品含有化学物質管理に関する説明会などにより必要な知識の普及を行っています。

その他、環境マネジメントシステムの内部監査員養成教育を実施し、人材の育成に努めています。

2014年度（平成26年度）環境目標達成状況

環境目標			達成状況	達成状況等
環境に配慮した製品づくり	（1）製品含有化学物質管理			
		製品含有化学物質管理効率化を踏まえた、化学物質規制進展および情報伝達スキーム統合化への対応	○	業務上の問題点の抽出と改善案の検討実施、新管理システムの選定完了。導入により顧客要求への効率的対応可能
	（2）環境配慮製品の拡大・充実			
		製品環境アセスメント結果の向上	○	製品環境アセスメントにおける「省資源化」評価点　平均7点以上　H26年度平均7．2点
環境に配慮した事業活動	（1）地球温暖化防止			
		前年度からのエネルギー原単位改善率　1%以上 （サクサグループ所有　5事業場）	○	改善率　1．2%（為替変動に伴う付加価値減少を考慮）
	（2）廃棄物等の削減・循環資源化			
		①　生産事業場における産業廃棄物排出量原単位を前年度より改善	○	改善率　10．4%
		②　事業系一般廃棄物排出量原単位を前年度より改善 （サクサグループ所有　5事業場）	○	改善率　±0%（為替変動に伴う付加価値減少を考慮、増減0は変動の範囲内であり、中長期を見すえ削減活動継続していく）
	（3）資源の有効利用			
		サクサ㈱の3事業場全体のコピー用紙購入量を前年度比　5%減	○	13．8%減
環境管理	（1）環境マネジメントシステムの向上			
		事業活動に密着した課題への取組み推進	○	部門目標設定時にコストに関する課題への取組により、成果が費用削減に表れている 内部環境監査時に環境視点で業務改善が出来る監査へ推進

社会貢献活動を通じた環境への寄与

サクサグループでは、事業活動に直結した環境保全活動とあわせて、企業の社会的責任としての、社会や地域に貢献できる環境活動も推進しています。

地 域 社 会 と と も に

各事業場では、近隣企業とともに行う清掃活動への参加をはじめとして、地域の美化に努めています。

近隣企業合同清掃（相模原オフィス）

八戸ハイテクパーククリーン作戦（サクサシステムエンジニアリング八戸本社）

八幡原工業団地　クリーン作戦（サクサテクノ）

八幡原工業団地　中央分離帯花植え（サクサテクノ）

社 会 貢 献 活 動 へ の 参 加 な ど

相模原地区のペットボトルキャップ回収、寄付活動

米沢地区に続き、相模原オフィスにおいても2014年9月からエコキャップ運動に取り組んでいます。

2015年3月11日にエコキャップ推進協会本部に寄贈したところ、エコキャップ推進協会ホームページ（エコキャップ通信）に、サクサグループ企業の活動が紹介されました。

【エコキャップ運動】

この活動は、ペットボトルのキャップを収集し、福祉団体に寄付することを通じ社会貢献と環境意識を高めるとともにその売却益で世界の子供にワクチンを届けようという活動です。

このほか、環境活動以外の社会貢献として、2014年6月26日、神奈川県危険物安全協会連合会定例表彰式が開催され、サクサ株式会社相模原オフィスが公益社団法人相模原市防災協会から「平成26年度一般社団法人　神奈川県危険物安全協会連合会　会長表彰」を受賞しました。

本表彰式は、日頃から危険物の保安、安全管理を通して事故や火災予防の推進に尽力し、地域の安全と安心に寄与した事業所を表彰するものです。

当社の受賞理由は、「危険物の安全管理において、法令を遵守し、違反・事故がなく適切に届出等を行い、職員に対する防災教育も徹底されている。」というものです。

神奈川県危険物安全協会連合会定例表彰式（サクサプロアシスト）